

令和3年度 第2回 堺市依存症対策推進懇話会（全体） 議事録

1 日 時 令和3年8月25日（水）午後2時～午後3時30分

2 場 所 オンライン（事務局：堺市役所高層館20階第1特別会議室）

3 委 員

出席者 伊東委員・入來委員・遠藤委員・高野委員・後藤委員・佐古委員・ソウマ委員・

滝口委員・寺井委員・寺田委員・西谷委員・野田委員・松井委員

欠席者 小野委員・はま委員・綿野委員

4 事務局

こころの健康センター 井川、今津、大上

精神保健課 前原、松尾、村上、肥塚、前田

5 会議次第

- | | | |
|---------------------------|--------|---------|
| (1) 開会 | | 2 |
| (2) 委員及び事務局職員紹介 | 事前送付資料 | 2 |
| (3) 案件・報告 | | |
| ①「堺市依存症地域支援計画」（素案）の検討について | 事前送付資料 | 2 |
| (4) その他 | | 4 |

6 議事の内容

(1) 開会

- ・堺市情報公開条例第35 条に基づき、会議を公開することを確認。

(2) 委員及び事務局職員紹介

【野田座長あいさつ】

- ・新型コロナ禍はわれわれも初めての体験で、見通しがつかなくなっている。震災は、阪神・淡路大震災などの経験からどのようなことが起きるかは分かってきたが、新型コロナは、「CBRNE災害」（化学：Chemical、生物：Biological、放射性物質：Radiological、核：Nuclear、爆発物：Explosive）と言われている。この言葉は、元々テロ対策で出た言葉から派生しているようである。
- ・新型コロナは、全体的に被災者となる、今まで経験したことがない新たな災害である。依存症に対してもどのような影響を及ぼすかが、全く分かっていない。特にギャンブルは、無観客になることでスマートフォンで誰でもできるようになり、余計にギャンブルをする人が増えているようである。アルコールに関しては、店舗が休業しているため、どうなるか全く分からない。ゲームをする人も増えている。今までとは違うことが、嗜癖行動で起こっていると思われる。
- ・堺市では、このように依存症全般に渡って検討する懇話会を作っていただいたため、皆様のお力を借りて、今後の計画に対して実りあるものにしていきたい。ご協力をよろしくお願いします。

【滝口職務代理あいさつ】

- ・新型コロナだけでなく、暑さも戻ってきた。そのような中ではあるが、よろしくお願いします。

(3) 案件・報告

案件①「堺市依存症地域支援計画」（素案）の検討について

【野田座長】

- ・今回の案件は、各分科会で議論していただく。1時間という短い時間のため、スムーズな進行にご協力のほどよろしくお願いします。グループは、資料を参照願う。

（各分科会にて議論）

【野田座長】

- ・皆様、各分科会で多くのご意見をいただき、感謝申し上げます。分科会で出たご意見を共有したい。順番に検討内容の発表をお願いする。

＜アルコール分科会＞

【事務局】

- ・以下のようなご意見があった。
- ・新型コロナ禍において自助グループが止まっており、それによって医療、回復施設が分断されている状況があるため、自助グループに対する支援を計画に具体的に落とし込んでほしい。
- ・今は新型コロナ禍ではあるが、ウィズコロナとして何ができるかも含めて計画に反映してほしい。
- ・アルコールに限らず、今後、各依存症とも連携を図っていく中で、早期発見の観点から、かかりつけ医である内科の医師も連携に参加していただける場を構築してほしい。

＜薬物分科会＞

【事務局】

- ・以下のようなご意見があった。
- ・孤立化しない対策を文言として計画に入れていくべきである。特に若い世代が依存症に陥らないための対策を盛り込むべきである。
- ・とぎれない支援を目的に、司法関係など地域の支援機関との連携をより強固にしなければならない。連携することで、当事者や家族が正しい情報を得る機会が増えることを現場として感じているため、今後も連携を強めて広めていきたい。
- ・自助グループのAA、NA、GAなどが、依存症にまったく関わったことがない人には分かりにくい用語のため、当事者はもちろん、市民や家族が分かりやすい説明を加えて記載することが必要である。

＜ギャンブル分科会＞

【事務局】

- ・細かい点まで様々なご意見をいただいたが、大きくは以下のようなご意見があった。
- ・素案では予防に関する表現を、1次予防から4次予防と記載しているが、4次予防は聞き慣れないため、言い変えができるのではないか。
- ・回復、予防、再発などの用語が専門職でなければ分からないため、分かるように記載したほうがよい。
- ・依存症になることで当事者や家族がスティグマに遭うことがある。計画の中でそれを表現することで増強してはならないが、スティグマの問題があることに触れておくことが大事である。
- ・自殺関連になるが、堺市の相談機関一覧の冊子で周知を行っているが、その冊子を行政機関だけでなく、一般市民の目に触れるスーパーなどにも置いてはどうか。
- ・少ない予算の中でよくやっているというお褒めの言葉もいただいた。
- ・現在行政の相談活動もかなり制限を受けているが、当事者の自助グループの活動も止まり、ミーティ

- ング会場の確保が困難な状況があるため、その辺りの支援をしてほしい。
- ・情報の周知、啓発をあらゆる形で頑張ってもらいたいという激励の言葉もいただいた。

<依存症全般分科会>

【事務局】

- ・多くのご意見をいただいたが、その中からまとめて報告する。
- ・依存症すべてが悪いものではないというところで、「ダメ。ゼッタイ。」だけではない教育が必要である。
- ・偏見、スティグマ、差別があることでつながれない人が多い。啓発が大事だが、依存症は簡単に解決できるものではないため、それだけではなく依存症に至る前の発症前の予防が必要である。アルコールは健康障害として浸透してきているが、ギャンブルや薬物も公衆衛生の視点として同じではないか。
- ・依存症に至る背景に問題を抱えている人がいる。中にはPTSDや重複障害をもっている人もいる。それらの問題に対する対策やトラウマインフォームドケアなども、今後、依存症対策には必要である。

【野田座長】

- ・各分科会での活発なご意見を報告いただき、多岐に渡って提言いただいた。事務局にてまとめ、実りある計画にしていきたいと思います。

(4) その他

【事務局】

- ・本日の懇話会に関しては、議事録を作成し、ホームページで公開する予定である。皆様には、議事録ができた段階で報告させていただくため、ご確認をよろしくお願いする。
- ・今回、素案に対して多くのご意見をいただき、感謝申し上げます。いただいたご意見を元に、修正や加筆を行い、さらに計画策定に向けて進めていく。
- ・事前にお送りしている通り、第3回懇話会は10月7日を予定している。今のところ対面の予定だが、今後の状況を鑑みて、本日と同じオンラインでの会議になる可能性もある。日程が近づいた時点で案内させていただく。
- ・本日の会議はこれにて終了する。

以上